

# 京大総長列伝

## THE PRESIDENTS OF KYOTO UNIVERSITY

木下廣次（1851～1910）。熊本出身。藩校・時習館に学んだ後、上京。大学南校、司法省明法寮（現・東大法学部）へと進んだ。パリ大学へ留学、法学博士号を取得した。帰国後は東京大学教授、第一高等学校校長を経て、京都帝大初代総長に就任した（1897～1907）。



▲木下元総長像



▲荒木元総長像



▲新城元総長像

折田彦市（1849～？）。薩摩出身。20歳で京都に出て岩倉具視に仕え、岩倉の2人の息子が留学するのに随行して、1870（明治3）年渡米。カレッジ・オブ・ニュージャージー（現・プリンストン大）に学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国。旧制三高の初代校長となり、計30年以上にわたって務めた。

旧制第三高等学校 東京の旧制一高とともに1886（明治19）年に設置された。当初大阪にあり、第三高等学校と称した。1889（明治22）年、現在の本部構内に移転した。京都帝大が創設されると、専門教育の場から大学への予備教育の場へと姿を変え、場所も現在の吉田南構内に移った。

荒木寅三郎（1866～1942）。群馬県出身。東京帝国大学医科大学別課卒。ドイツで生化学を学ぶ。帰国後、岡山の第三高等学校医学部で教え、1899（明治32）年京都帝大に設置された医科大学の教授に就任。1903（明治36）年医科大学長。第7代総長（1915～1929）。

新城新蔵（1873～1938）。福島県出身。東京帝国大学理科大学物理学科卒。ドイツ留学後、京都帝大教授。専門は宇宙物理学。古代中国の天文学・暦学を研究し、干支や占星術にまつわる迷信の打破につとめた。第8代総長（1929～1933）。

夏休みはオープンキャンパスの季節でもあります。時には後輩や弟妹の案内役をすることもありますが。しかし、いざ案内してみると、意外と京大について知らないことを痛感するものです。

そこで今日は、知っているようで知らない京大の歴史について「総長」という切り口から学んでみることにしましょう。

（ピカイチ&じゃこらんたん）

—ある屋下がりの時計台。京大生のA君は、同じ高校の後輩で京大を目指す受験生B君を連れて京都大学にやってきました。

A：これが京都大学のシンボルマーク、時計台とクスノキだよ。

B：へえ。あの銅像×3は何なの？

A：えっ！ 去年までフェンスに覆われていて気が付かなかったよ。昔の偉い総長とかじゃないかな。

B：何も書いてない銅像もあるよ？

A：それは…。

\*\*\*

京大史に詳しくな通りすがりの京大探偵団員（以下詳）：某学部生君、お困りのようだね。

B：あの左の銅像は誰なんですか？

詳：初代総長・木下廣次（きのした ひろじ）先生だよ。

A：初代総長は折田彦市先生じゃないんですか。

詳：うん。折田先生は実は京大の総長じゃなくて、旧制第三高等学校の校長だったんだ。今の京大の学風を創ったのは折田先生という風と言われることが多いけれど、木下総長も京大の基礎を築くのに大きな役割を果たしている。何をとらえて「京大の学風」と呼ぶのかにもよるけど、「アンチ東大」みたいな京大のイメージは初代総長の時期にはもうできあがっていたんだ。何しろその頃、国立大学（当時は帝国大学）は京大と東大しかなかったんだからね。それから…。

A：ああ先輩、もういいです。どうもありがとうございました。

詳：そうだ。北部キャンパスにも元総長の銅像がある。総長に興味があるなら見に行くといい。

B：行ってみましょう、先輩。

A：しょうがないなあ。

はみだし  
すてーじ

独立法人化ではみだしすてーじも変わったのでしょうか？  
⇒はみだしすてーじがらいふすてーじから独立？

（理・1 phytime）  
（実現したらはみだしすてーじ編集部の方に入りたい編）

——北部キャンパスの総長像はなかなか見つかりません。

A：総長の銅像なんてどこにもないじゃないか。  
詳：やぁ君たち、また会うとは奇遇だね。北部の総長像は分かりにくい場所にあるから案内してあげよう。さぁこっちだ。

A：絶対わざとついてきたな…。

詳：これが久原躬弦（くはら みつる）元総長の像だよ。本学の教授として初めて総長になった人だ。

B：昔は京大の教授じゃない人が総長になっていたんですか？

詳：帝国大学の総長は文部省（当時）に任命されて東京から来ていたんだ。そのことが問題化したのが澤柳事件だ。東大総長・山川健次郎が京大総長を兼任した時代を経て、さっき時計台で銅像を見た荒木寅三郎総長がつづく。彼は学内選挙で選ばれた最初の総長だ。

A：なるほど。彼らの築いた大学自治の伝統が今に続くってわけですか。

詳：ちっちっち。澤柳事件が起こったのが第一次大戦の前年だよ？ これからは激動の昭和さ。自由の校風にとっては受難の時代だった。それを象徴するのがご存じ瀧川事件だ。

B：あ、それ学校で教わりましたよ。

詳：それなら説明は要らないね。終戦後、瀧川事件で京大を去った法学部の教授たちが復職することになった。瀧川幸辰（たきがわ ゆきとき）は法学部長を経て総長の任に就いたというわけ。

B：人生山あり谷ありって感じですね。

詳：なんか身も蓋もない気もするけど…そういうことかな？ そういえば彼は初代以来の法学部出身総長だったんだよ。

A：詳しい…。まさか他の総長の出身学部までは知らないでしょうね？

詳：ふっふっふ。図表1及び図表2を見たまえ。

A & B：どこからこんな資料を…。

詳：現総長の尾池和夫氏は、第10代松井元興総長以来、なんと約70年ぶりの理学部出身者だそうだよ。しかも初の東京都出身。

A：まさか出身県まで知っているとは…。

B：本当に詳しいですねえ。

詳：京大について少しは分かってもらえたかな？

B：ええ、もちろん！ 噂には聞いていたけど、本当にこんな変人がいるとは思いませんでした。貴重な体験ありがとうございました！

詳：……。受験、がんばってね。 【完】

久原躬弦（1855～1919）。津山藩の藩医の子として生まれた。大学南校に学び、（旧制）東京大学理学部化学科卒。23歳で化学会（現・日本化学会）初代会長となった。米・ジョンズホプキンス大に留学。（旧制）東京大学教授、第一高等中学校校長を経て京都帝大教授。第4代総長（1912～1913）。

澤柳事件 1913（大正2）年7月、澤柳政太郎総長が学内刷新を唱え、医科1名・理工科5名・文科1名の計7名の教授に辞表を提出させた事件。これに対し法科大学が「教授の任免には教授会の同意が必要」として抗議し、東大法科の調停もあって文部省は教授会の人事権を認める覚書を出した。

瀧川事件 1933（昭和8）年、法学部の瀧川幸辰教授がその著書『刑法読本』等を問題視され、文部省から休職処分を受けたことにはじまり、学問の自由を主張した法学部教授・学生らによる抗議運動に至る一連の事件。多くの法学部教授が辞職した。京大事件とも呼ばれる。



▲久原元総長像

▼久原元総長像への案内図



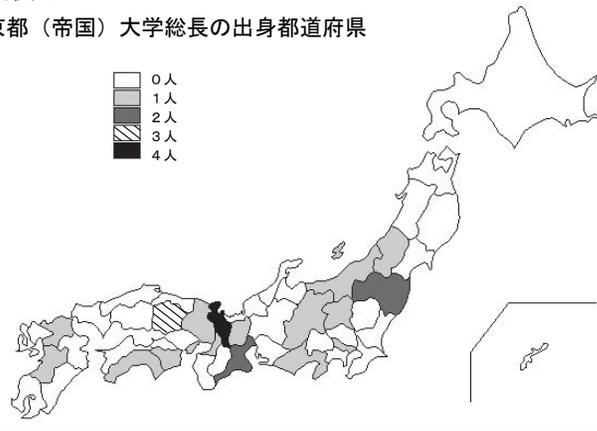
図表1

京都（帝国）大学総長の出身学部

理学部…6人	文学部…3人
医学部…5人	農学部…2人
工学部…4人	法学部…2人
（その他に文部官僚が2人）	

図表2

京都（帝国）大学総長の出身都道府県



この記事の執筆にあたっては、『京都大学百年史』（京都大学百年史編集委員会編）、『京都帝国大学の挑戦』（潮木守一著・講談社学術文庫）を参考にしたほか、各種人名録を参照させていただきました。

はみだし  
すてーじ

学食の丼の味つけ、甘いと思う。  
⇒辛口なコメントをありがとうございます。

（薬・3 green）  
（でもそれはひとことカードに…と切に願う編）